

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP04/017886

International filing date: 01 December 2004 (01.12.2004)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-222084
Filing date: 29 July 2004 (29.07.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 04 February 2005 (04.02.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

02.12.2004

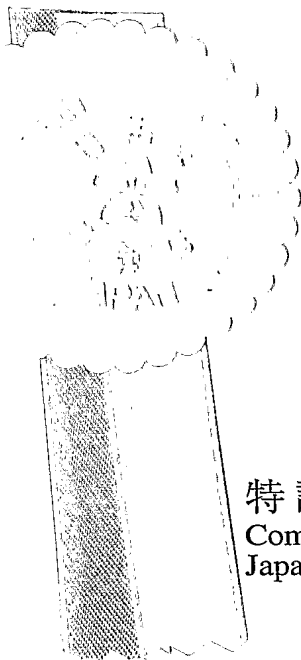
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 7 月 2 9 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 2 2 2 0 8 4
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 2 2 2 0 8 4]

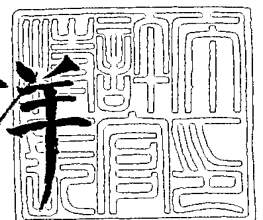
出 願 人 扶 桑 薬 品 工 業 株 式 有 限 公 司
Applicant(s): 岡 久 稔 也



特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

2 0 0 5 年 1 月 2 1 日

小 川 洋



【書類名】 特許願
【整理番号】 195220
【提出日】 平成16年 7月29日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A61J 1/14
【発明者】
 【住所又は居所】 徳島県徳島市北田宮 2 - 1 - 5 1
 【氏名】 岡久 稔也
【特許出願人】
 【識別番号】 000238201
 【住所又は居所】 大阪府大阪市中央区道修町 1 丁目 7 番 1 0 号
 【氏名又は名称】 扶桑薬品工業株式会社
【特許出願人】
 【識別番号】 503443094
 【住所又は居所】 徳島県徳島市北田宮 2 - 1 - 5 1
 【氏名又は名称】 岡久 稔也
【代理人】
 【識別番号】 100084146
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 山崎 宏
 【電話番号】 06-6949-1261
 【ファクシミリ番号】 06-6949-0361
【選任した代理人】
 【識別番号】 100100170
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 前田 厚司
 【電話番号】 06-6949-1261
 【ファクシミリ番号】 06-6949-0361
【選任した代理人】
 【識別番号】 100122943
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 岡崎 博之
 【電話番号】 06-6949-1261
 【ファクシミリ番号】 06-6949-0361
 【連絡先】 担当
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 204815
 【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

薬剤が充填される輸液バッグを収納する輸液バッグ収納容器において、
前記輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部を内側にして 2 つ折りにした状態で収納する
収納容器本体と、

前記バッグ本体の一方の壁部に当接される棒状部材と、前記収納容器本体の外側から前
記棒状部材を挟持して前記バッグ本体内部を閉塞するクリップ部材とからなる仕切手段と
で構成されていることを特徴とする、輸液バッグ収納容器。

【請求項 2】

薬剤が充填される輸液バッグを収納する輸液バッグ収納容器において、
前記輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部を内側にして 2 つ折りにした状態で収納する
収納容器本体と、

前記バッグ本体の一方の壁部に当接される棒状部材と、前記収納容器本体の内側に一体
的に形成され、前記バッグ本体の他方の壁部から前記棒状部材を挟持して前記バッグ本体
内部を閉塞するクリップ部材とからなる仕切手段とで構成されていることを特徴とする、
輸液バッグ収納容器。

【書類名】明細書

【発明の名称】輸液バッグ収納容器

【技術分野】

【0001】

本発明は、輸液バッグを収納する輸液バッグ収納容器に関する。

【背景技術】

【0002】

2種類以上の薬剤を配合する場合、薬剤的相互作用に起因する経時的変化によって薬剤が変質する危険性があるため、弱シール部で区画された複数の薬剤充填室を備える輸液バッグを用いて、各未混合薬剤が個別に充填されていることがある。このような輸液バッグでは、輸送時に弱シール部の剥離が起こらないようにするため、通常、輸液バッグを弱シール部で2つ折りにして外装用の袋に収納される。かかる輸液バッグを用いて未混合薬剤を混合する場合には、輸液バッグを外装用の袋から取り出し、いずれかの薬剤充填室の壁部の外表面を押圧して弱シール部を剥離させなければならない（例えば、特許文献1参照。）。

【特許文献1】特開2001-252334号

【0003】

しかしながら、前記のように外装用の袋に輸液バッグを収納するだけでは、輸液バッグを外装用の袋から取り出した場合に、弱シール部の剥離作業を怠ってしまうことがあり、口栓に設けられたゴム栓体に中空針を刺通して、口栓側の区画部に充填された未混合薬剤を患者に投与するような事態が起こり得るという問題点がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

したがって、本発明は、かかる問題点を解消するため、輸液バッグを取り出すと同時に未混合薬剤が混合するように構成された輸液バッグ収納容器を提供し、仕切手段の未解除による未混合薬剤の誤投与という医療事故を未然に防止することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記課題を解決するための手段として、本発明は、薬剤が充填される輸液バッグを収納する輸液バッグ収納容器において、前記輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部を内側にして2つ折りに維持した状態で収納する収納容器本体と、前記バッグ本体の一方の壁部に当接される棒状部材と、前記収納容器本体の外側から前記棒状部材を挟持して前記バッグ本体内部を閉塞するクリップ部材とからなる仕切手段とで構成されたものである。

【0006】

薬剤が充填される輸液バッグを収納する輸液バッグ収納容器において、前記輸液バッグのバッグ本体の一方の壁部を内側にして2つ折りに維持した状態で収納する収納容器本体と、前記バッグ本体の一方の壁部に当接される棒状部材と、前記収納容器本体の内側に一体的に形成され、前記バッグ本体の他方の壁部から前記棒状部材を挟持して前記バッグ本体内部を閉塞するクリップ部材とからなる仕切手段とで構成されていてもよい。

【発明の効果】

【0007】

前記手段によれば、輸液バッグ収納容器に輸液バッグが収納されている場合、フックに吊り下げることができず、また、収納容器本体から輸液バッグを取り出すと同時に、仕切手段が自然に解除するため、口栓側の区画部に充填された未混合薬剤を患者に誤って投与するような事態が起こることはない。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、添付の図面に従って、本発明の第1実施形態を説明する。

【0009】

図 1 及び図 2 は、本発明の第 1 実施形態に係る輸液バッグ収納容器に輸液バッグを収納した状態を示したものである。この輸液バッグ収納容器 1 は、収納容器本体 2 と、仕切手段 3 とで構成される。

【0010】

収納容器本体 2 は、封止部 2 1 と、輸液バッグ収納部 2 2 とで構成される。封止部 2 1 は、1 枚の矩形状のフィルムシートを 2 つ折りにした状態で、周辺部の内表面が略逆 U 字状に加熱溶着されて形成されている。輸液バッグ収納部 2 2 は、略逆 U 字状の封止部 2 1 の内側に形成され、後述の輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の一方の壁部 4 2 を内側にして 2 つ折りにした状態で収納する。封止部 2 1 は、収納容器本体 2 の上部を切り裂く切り込み部 2 3 を備える。切り込み部 2 3 は、上方の封止部 2 1 a より下方に位置する側方の一方の封止部 2 1 b に形成されている。

【0011】

仕切手段 3 は、図 3 に示したように、クリップ部材 3 1 と棒状部材 3 4 とからなる。クリップ部材 3 1 は、弾性を有する剛性材料で構成され、輸液バッグ 4 の一方の壁部 4 2 に当接した後述の棒状部材 3 4 を、収納容器本体 2 の底部外側から挟持して輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の内部を閉塞し、バッグ本体 4 1 の内部を第 1 と第 2 の薬剤充填室 4 4, 4 5 に区画する。クリップ部材 3 1 は、横断面の形状が略 C 字状に形成され、挟持部 3 2 と、該挟持部 3 2 の内側に形成された挟持空間 3 3 とで構成されている。クリップ部材 3 1 は、弾性を有するものであれば、鉄等の金属で構成されていてもよいが、取り扱いの安全性を考慮すると、弾性プラスチック材で構成されるのが好ましい。

【0012】

棒状部材 3 4 は、横断面の形状が円形に形成された合成樹脂で構成される。棒状部材 3 4 は、図 1 及び図 2 に示したように、後述の輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の一方の壁部 4 2 に当接した状態でクリップ部材 3 1 の挟持部 3 2 に挟持される。棒状部材 3 4 は、輸液バッグ 4 の一方の壁部 4 2 に接着剤等で、一体的に固定されてもよい。

【0013】

輸液バッグ 4 は、図 4 に示したように、バッグ本体 4 1 の周辺部に形成された周辺強シール部 4 6 を備える。周辺強シール部 4 6 は、バッグ本体 4 1 を構成する 2 枚のフィルムシートの周辺部の内表面が、口栓 5 の薬剤排出管 5 1 を挟持した状態で加熱溶着されて形成される。口栓 5 は、筒状で、薬剤排出管 5 1 と、中空針が刺通されるまでゴム栓で密封された薬剤排出口 5 2 とで構成されている。

【0014】

本発明の第 1 実施形態に係る輸液バッグ収納容器 1 を用いて、輸液バッグ 4 を収納する場合、まず、輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の中央の短手方向に沿って棒状部材 3 2 を輸液バッグ 4 の一方の壁部 4 2 に当接させる。次に、棒状部材 3 4 の当接位置で、一方の壁部 4 2 を内側にしてバッグ本体 4 1 を 2 つ折りにする。次に、収納容器本体 2 を構成する 1 枚の矩形状のフィルムシートの中央部分がバッグ本体 4 1 の折り畳み位置と一致するように、前記フィルムシートを輸液バッグ 4 の他方の壁部 4 3 に当接させる。次に、棒状部材 3 4 を当接させた位置で、輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 をクリップ部材 3 1 の挟持空間 3 3 に挿入して、クリップ部材 3 1 の挟持部 3 2 で挟持し、バッグ本体 4 1 の内部が、第 1 と第 2 の薬剤充填室 4 4, 4 5 に区画される。

【0015】

仕切手段 3 を輸液バッグ 4 に取り付けてバッグ本体 4 1 の内部を仕切った後、口栓 5 の薬剤排出口 5 2 から第 1 の薬剤充填室 4 4 に未混合薬剤を充填し、また、口栓 5 とは反対側の端部に形成された薬剤充填口 4 7 から第 2 の薬剤充填室 4 5 に別の未混合薬剤を充填する。次に、薬剤排出口 5 1 をゴム栓体で密閉し、また、薬剤充填口 4 7 も加熱溶着して密閉し、各未混合薬剤を封入する。次に、収納容器本体 2 を構成する 1 枚の矩形状のフィルムシートの周辺部を加熱溶着して、輸液バッグ 4 を収納容器本体 2 の輸液バッグ収納部 2 2 に封入する。

【0016】

次に、本発明の第1実施形態に係る輸液バッグ収納容器1を使用する場合の作用について説明する。

【0017】

輸液バッグ収納容器1に輸液バッグ4が収納されている場合、図5(a)に示したように、棒状部材34が当接するバッグ本体41の内部を、クリップ部材31で挟持して閉塞しているため、輸液バッグ4のバッグ本体41の内部を2つに区画して完全に仕切ることができる。また、輸液バッグ収納容器1は、収納容器本体2によって、輸液バッグ4を2つ折りにした状態に維持することができ、輸液バッグ4をフックに吊り下げることがなく、薬剤の投与ができない状態にあることを外観上の形態から確認することができる。

【0018】

輸液バッグ4を輸液バッグ収納容器1から取り出す場合、切り込み部23を用いて収納容器本体2の上部を切り裂いて、輸液バッグ収納部22を開封する。次に、使用者は、輸液バッグ収納部22の内部に挿入した一方の手で輸液バッグ4のバッグ本体41を把持し、他方の手で収納容器本体2の側方の封止部21b、21cのいずれかを把持して、輸液バッグ4を引き出すと、クリップ部材31の挟持が解除されて、図5(b)に示したように、クリップ部材31が落下し、輸液バッグ4を収納容器本体2から取り出すことができる。仕切手段3による仕切りが解除されているため、図5(c)に示したように、輸液バッグ4のバッグ本体41を展開すると、未混合薬剤を混合することができる。なお、収納容器本体2の側方の封止部21b、21cの溶着部分を剥離して収納容器本体2を展開した後、一方の手で輸液バッグ4のバッグ本体41を把持し、他方の手で展開した収納容器本体2のフィルムシートの両端部を把持して、それぞれ反対方向に引っ張ってクリップ部材31の挟持を解除してもよい。

【0019】

図6及び図7は、本発明の第2実施形態に係る輸液バッグ収納容器に輸液バッグを収納した状態を示したものである。この輸液バッグ収納容器1は、収納容器本体2と、仕切手段3とで構成される。

【0020】

収納容器本体2は、第1実施形態と同様に、1枚のフィルムシートの周辺部を加熱溶着することで、封止部21と、輸液バッグ収納部22とで構成される。

【0021】

仕切手段3は、第1実施形態と同様に、クリップ部材31と棒状部材34とからなる。クリップ部材31は、挟持部32の底部外側が収納容器本体2の内表面に加熱溶着されて、収納容器本体2と一体的に形成されている。クリップ部材31は、第1実施形態と同様に、弾性力を有する剛性材料で構成され、輸液バッグ4の一方の壁部42に当接した後述の棒状部材34を他方の壁部43から挟持して輸液バッグ4のバッグ本体41の内部を閉塞し、バッグ本体41の内部を第1と第2の薬剤充填室44、45に区画する。

【0022】

棒状部材34は、第1実施形態と同様に、横断面の形状が円形に形成された合成樹脂で構成される。棒状部材34は、図6及び図7に示したように、輸液バッグ4の一方の壁部42に当接した状態でクリップ部材31の挟持部32に挟持される。

【0023】

本発明の第2実施形態に係る輸液バッグ収納容器1を用いて、輸液バッグ4を収納する場合、まず、クリップ部材31の底部外側と、収納容器本体2を構成する1枚の矩形状のフィルムシートの中央付近の内表面とを加熱溶着して、クリップ部材31を1枚のフィルムシートに一体的に形成する。次に、バッグ本体41の中央の短手方向に沿って棒状部材32を輸液バッグ4の一方の壁部42に当接させる。次に、棒状部材34の当接位置で、一方の壁部42を内側にしてバッグ本体41を2つ折りにする。次に、輸液バッグ4のバッグ本体41を、1枚のフィルムシートで一体的に形成されたクリップ部材31の挟持空間33に挿入して、クリップ部材31の挟持部32で挟持し、バッグ本体41の内部を第1と第2の薬剤充填室44、45に区画する。その後、第1実施形態の場合と同様の方法

で、仕切手段 3 で区画された輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の内部に各未混合薬剤を充填し、収納容器本体 2 を構成する 1 枚の矩形状のフィルムシートの周辺部を加熱溶着して、輸液バッグ 4 を収納容器本体 2 の輸液バッグ収納部 2 2 に封入する。

【0024】

第 1 実施形態と同様に、第 2 実施形態に係る輸液バッグ収納容器 1 においても、輸液バッグ 4 が収納されている場合、棒状部材 3 4 が当接するバッグ本体 4 1 の内部を、クリップ部材 3 1 で挟持して閉塞しているため、輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の内部を 2 つに区画して完全に仕切ることができる。また、輸液バッグ収納容器 1 は、収納容器本体 2 によって、輸液バッグ 4 を 2 つ折りにした状態に維持することができ、輸液バッグ 4 をフックに吊り下げることがなく、薬剤の投与ができない状態にあることを外観状の形態から確認することができる。

【0025】

輸液バッグ 4 を輸液バッグ収納容器 1 から取り出す場合、切り込み部 2 3 を用いて収納容器本体 2 の上部を切り裂いて、輸液バッグ収納部 2 2 を開封する。次に、使用者は、輸液バッグ収納部 2 2 の内部に挿入した一方の手で輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 を把持し、他方の手で収納容器本体 2 の側方の封止部 2 1 b, 2 1 c のいずれかを把持して、輸液バッグ 4 を引き出すと、クリップ部材 3 1 の挟持が解除されて、輸液バッグ 4 を収納容器本体 2 から取り出すことができる。これにより、輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 を展開して、仕切手段 3 による仕切りが解除されて未混合薬剤を混合することができる。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】輸液バッグが収納された状態を示す本発明の第 1 実施形態に係る輸液バッグ収納容器の側面図である。

【図 2】図 1 の輸液バッグ収納容器の斜視図である。

【図 3】図 1 の輸液バッグ収納容器の収納容器本体に取り付けられる仕切手段の斜視図である。

【図 4】図 1 の輸液バッグ収納容器に収納される輸液バッグの正面図である。

【図 5】(a) は、図 1 の輸液バッグ収納容器の断面図であり、(b) は、仕切手段が解除された状態の図 1 の輸液バッグ収納容器の断面図であり、(c) は、図 4 の輸液バッグを展開した状態の断面図である。

【図 6】輸液バッグが収納された状態を示す本発明の第 2 実施形態に係る輸液バッグ収納容器の側面図である。

【図 7】図 6 の輸液バッグ収納容器の斜視図である。

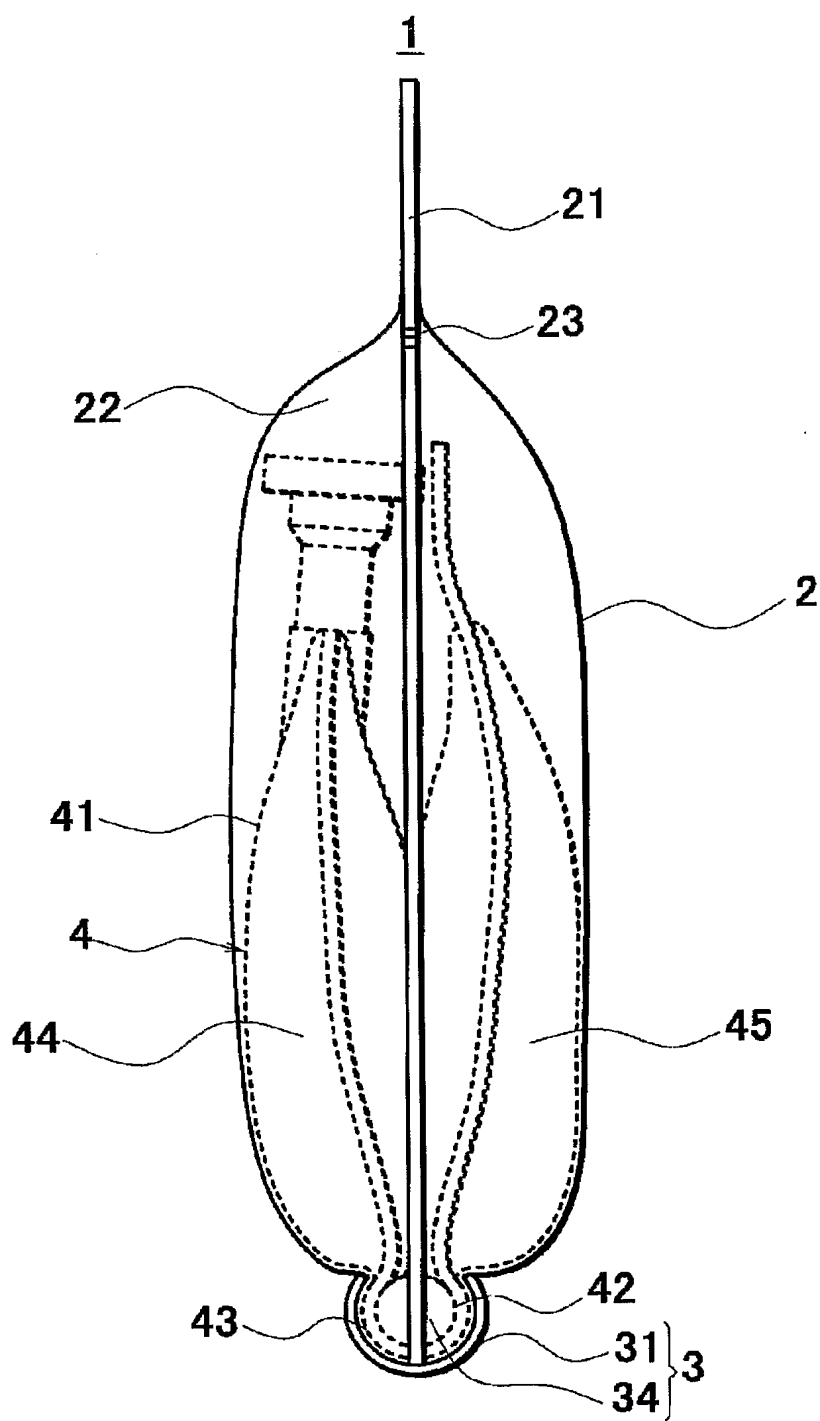
【符号の説明】

【0027】

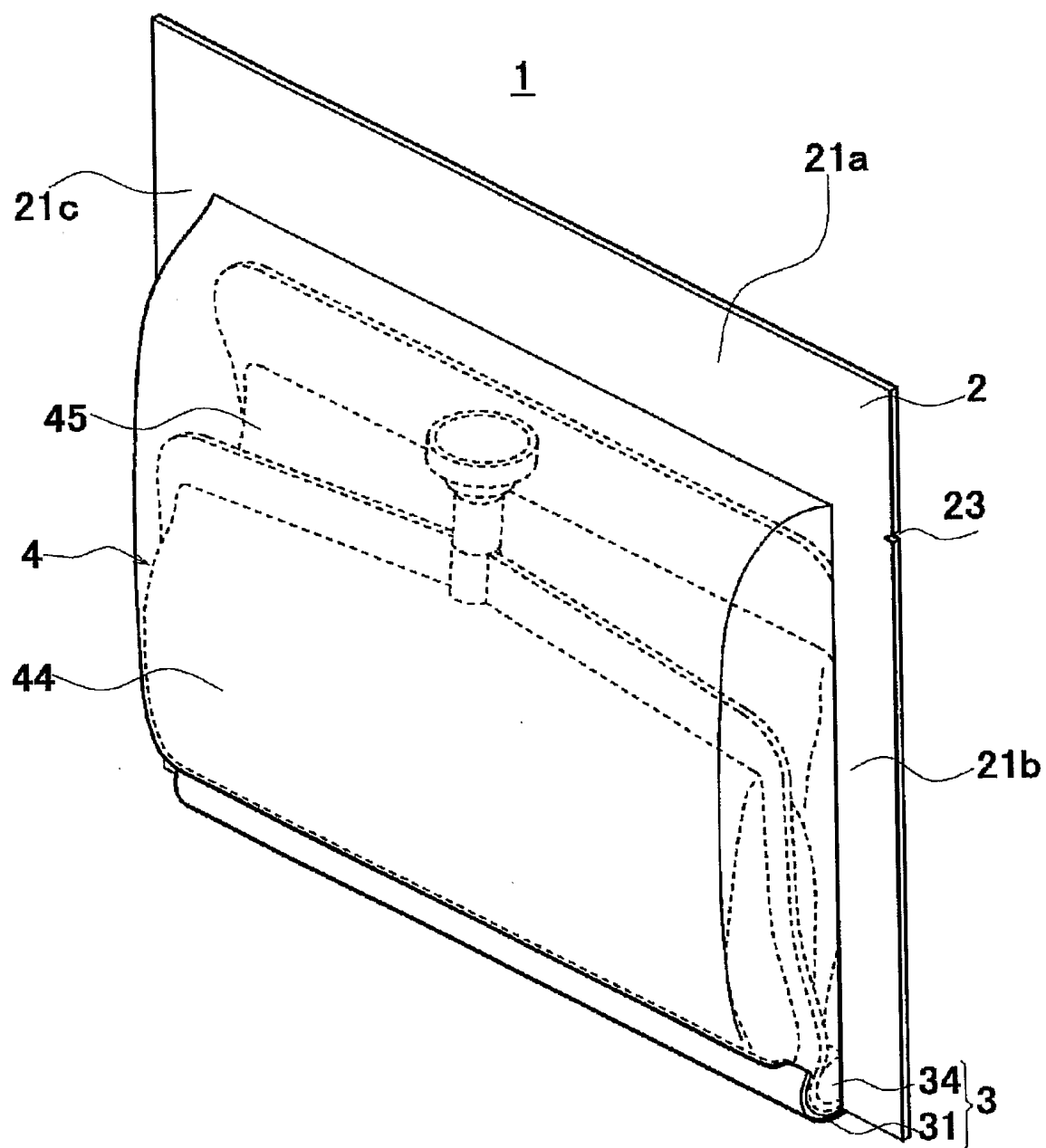
- 1 輸液バッグ収納容器
- 2 収納容器本体
- 2 1 封止部
- 2 1 a 上方の封止部
- 2 1 b 一方の側方の封止部
- 2 2 輸液バッグ収納部
- 3 仕切手段
- 3 1 クリップ部材
- 3 2 挟持部
- 3 3 挟持空間
- 3 4 棒状部材
- 4 輸液バッグ
- 4 1 バッグ本体
- 4 2 一方の壁部
- 4 3 他方の壁部

- 4 4 第 1 の薬剤充填室
- 4 5 第 2 の薬剤充填室
- 4 6 周辺強シール部
- 4 7 薬剤充填口
- 5 口栓
- 5 1 薬剤排出口
- 5 2 薬剤排出管

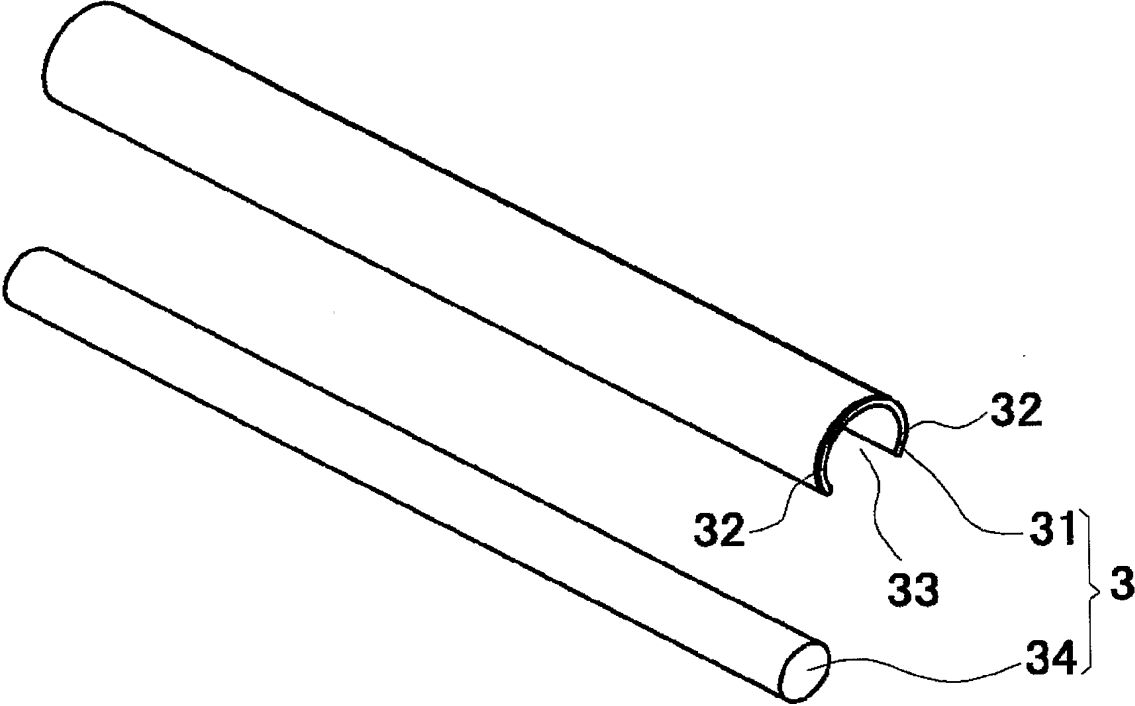
【書類名】 図面
【図 1】



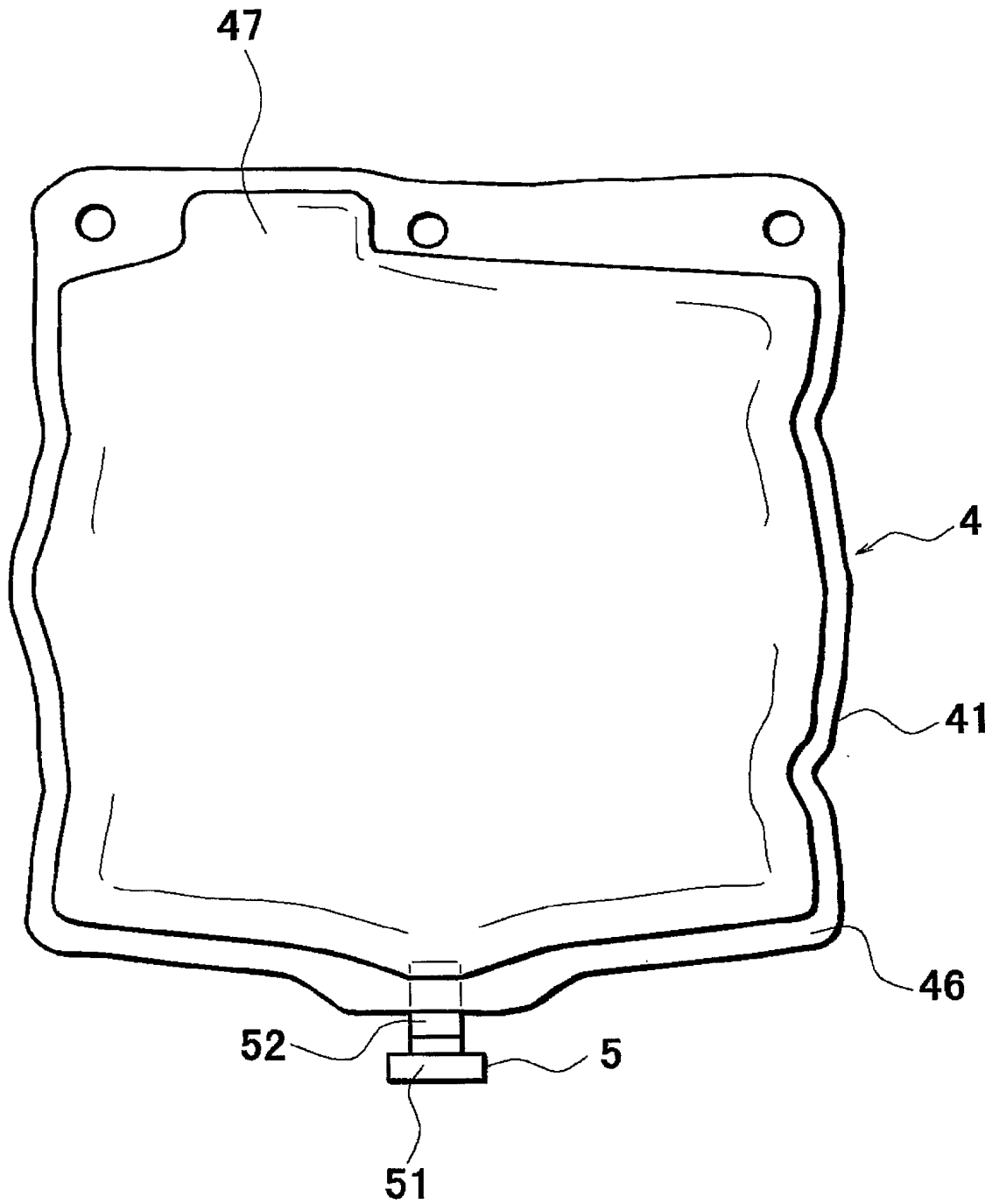
【図 2】



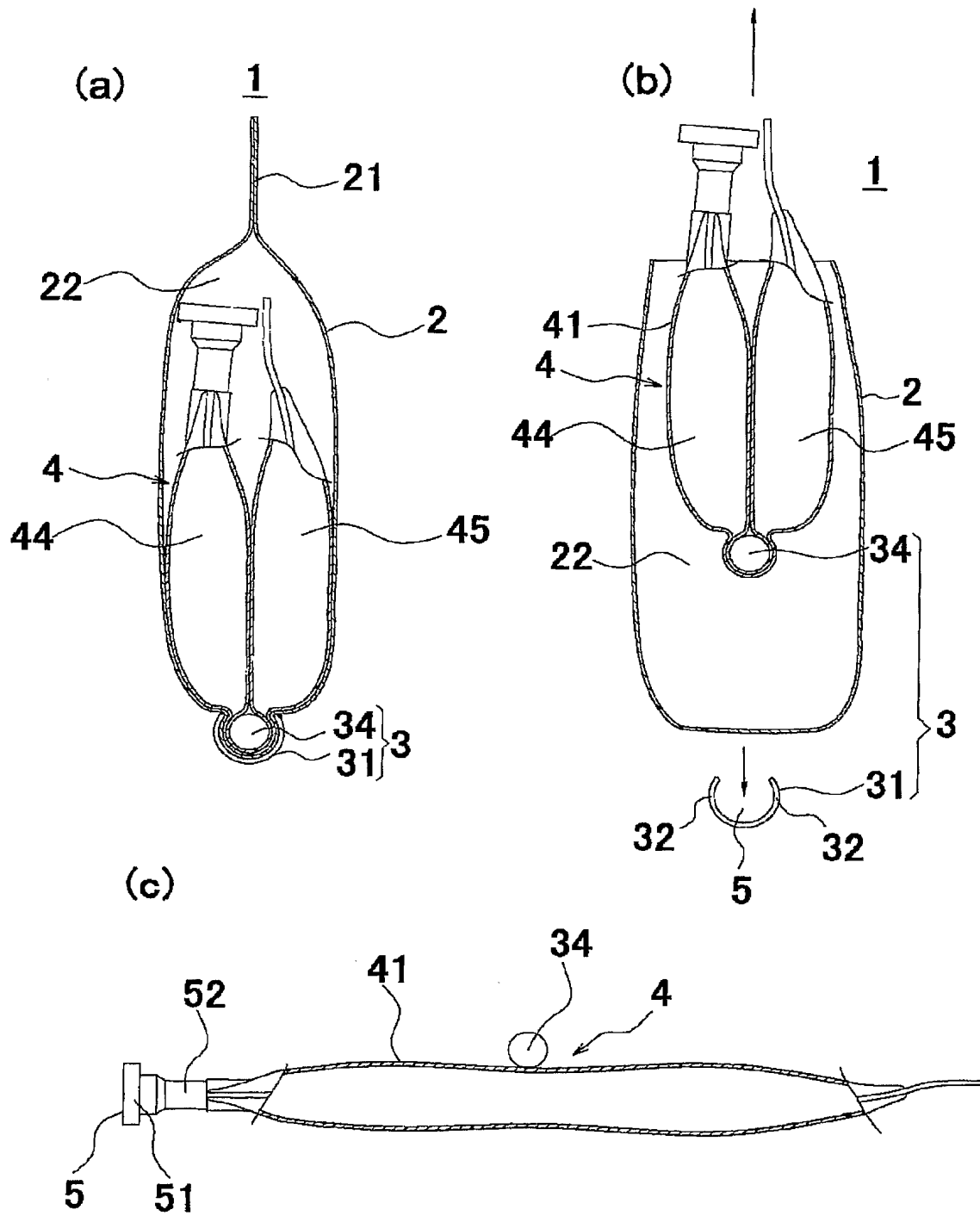
【図 3】



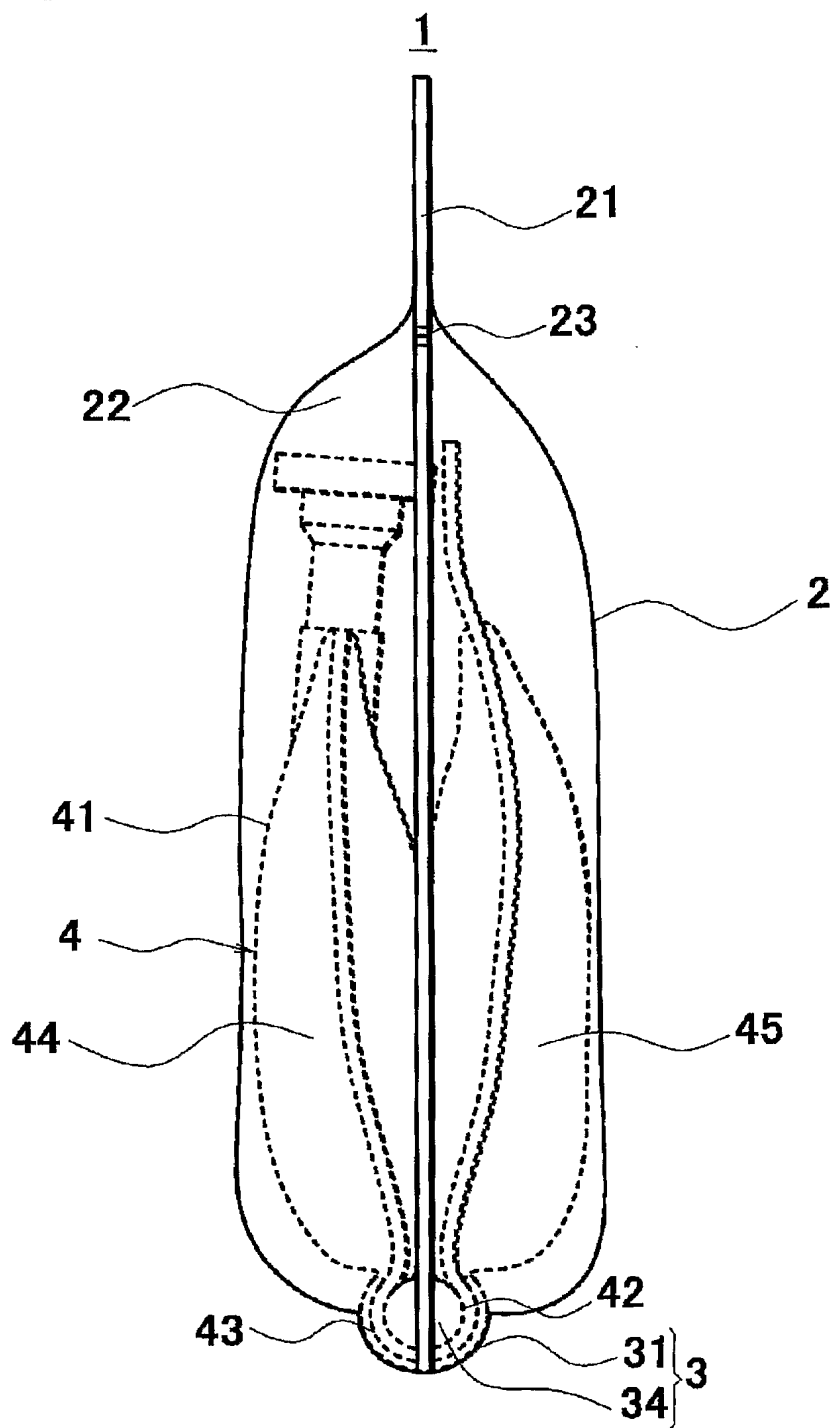
【図 4】



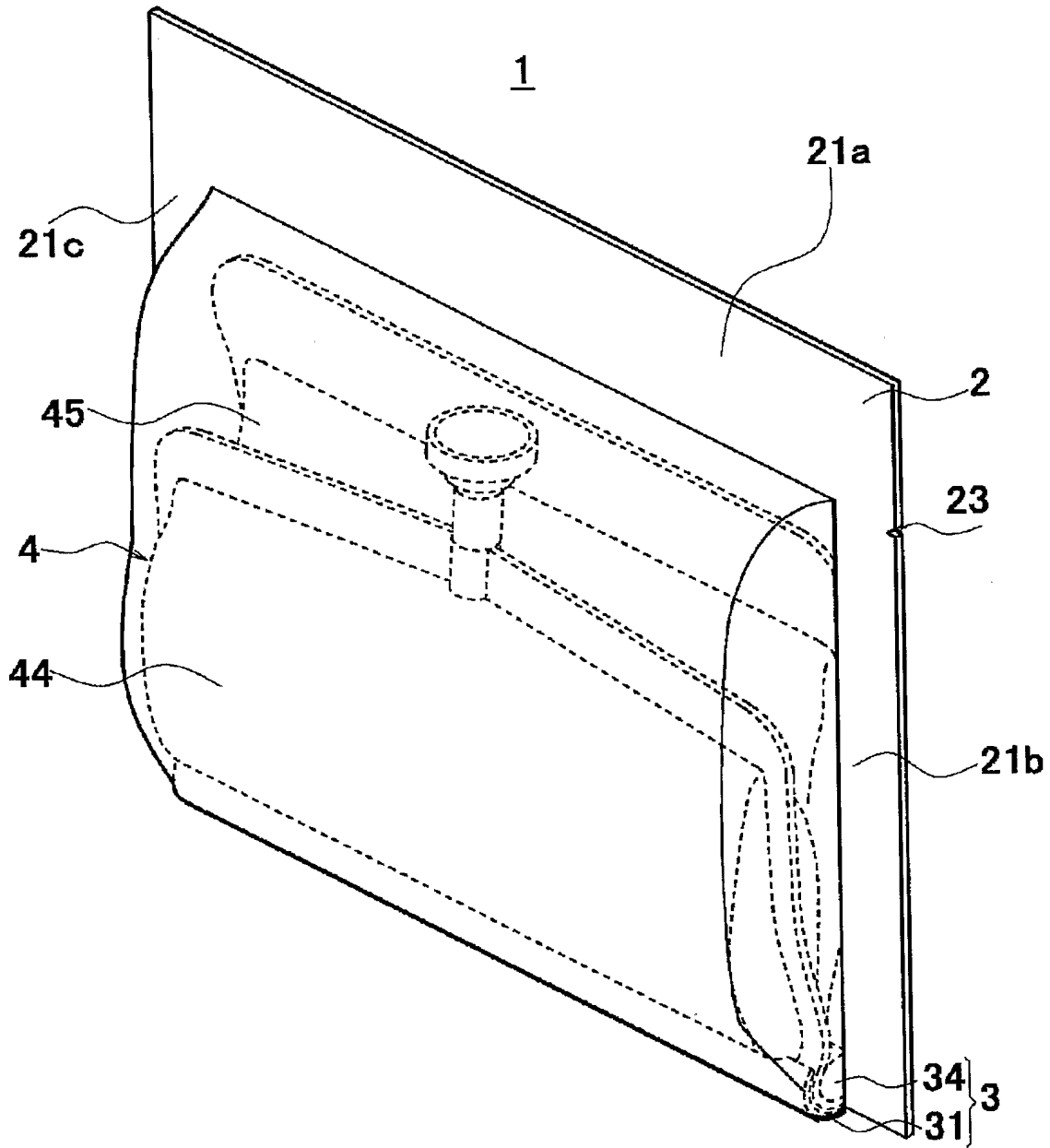
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 輸液バッグを取り出すと同時に未混合薬剤が混合するように構成された輸液バッグ収納容器を提供する。

【解決手段】 薬剤が充填される輸液バッグ 4 を収納する輸液バッグ収納容器 1 において、前記輸液バッグ 4 のバッグ本体 4 1 の一方の壁部 4 2 を内側にして 2 つ折りにした状態で収納する収納容器本体 2 と、前記バッグ本体 4 1 の一方の壁部 4 2 に当接される棒状部材 3 4 と、前記収納容器本体 2 の外側から前記棒状部材 3 4 を挟持して前記バッグ本体 4 1 内部を閉塞するクリップ部材 3 1 とからなる仕切手段 3 とで構成された。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 4 - 2 2 2 0 8 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 2 3 8 2 0 1]

1. 変更年月日 1 9 9 0 年 8 月 8 日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市中心区道修町 1 丁目 7 番 1 0 号

氏 名 扶桑薬品工業株式会社

特願 2 0 0 4 - 2 2 2 0 8 4

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[5 0 3 4 4 3 0 9 4]

1. 変更年月日

2 0 0 3 年 1 2 月 2 日

[変更理由]

新規登録

住 所

徳島県徳島市北田宮 2 - 1 - 5 1

氏 名

岡久 稔也